

The Historical Development of Physiological
Thought. Hafner, New York. 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責了とみなす。

八 刷り上がり一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四

編集後記

ことのほかの猛暑に見舞われた夏もいつしか去って、清々しい秋の青空のもと開催される第一〇三回総会の抄録号をおとどけする。秋の総会号はもつとも条件の悪い夏の最中編集・校正の作業をおこなわなければならず、それも今年に例をみない酷暑ではあったが、編集担当者と委員会の緊密なチームワークよろしく、予定の期日に発刊できたことは、同慶にたえないところである。

特別講演二題のほか七六題という多数の一般口演の応募があり、準備委員会はその扱いにうれしい悲鳴をあげたときいている。このような多数の演題のほか、合同総会のために両学会の総会議事をおこなわなければならず、そのために二会場制を採用せざるをえなかったとのことである。

古代のガレノスから戦後の現代的諸問題まで、洋の東西を

枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし、実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒二三〇〇三 東京都文京区本郷六一一七一九

本郷綱ビル二階

財団法人日本学会事務センター学会共同編集室内、

日本医史学雑誌編集委員会

問わず幅広い話題がとりあげられている。しかし時間の制約によつてすべての演題を聴講するわけにはいかないのが残念ではあるが、今回は日本歯科医史学会との合同総会なので、われわれにとっては歯科医史領域の話題に親しむにはまたない機会である。関心を同じくするものが総会でつちかあった交流によつて、のちの研究にさらなる発展の契機があたえられるにちがいない。総会参加者としては、合同総会という困難な運営をあえてひきうけられた関係者の努力を無駄にしない配慮も必要ではないかと思っている。さらに総会で発表された業績は、ぜひとも論文としてご投稿いただきたいものとお願している。

新瀉でお目にかかる日を楽しみにしながら編集後記の筆をおく。

(深瀬 泰旦)